

特別講演 1

「プライマリケアの現場で使えるエコー」

福井大学医学部 救急部・総合診療部 講師

小淵 岳恒 先生

プライマリケア・地域医療の分野では日常診療や訪問診療において突然自分の専門外（小児科、皮膚科、眼科、耳鼻科、整形外科など）の診療を依頼されることは多く、また時間外の受診の際には、医療者の気持ちとして「専門医の外来が閉まっているこんな時間に来られても困る」と思うこともしばしばあります。しかし、目の前で困っている患者さんに手を差しのべて、自分自身で時間をかけずにスッキリ解決したいという気持ちは皆同じです。

しかし、「今すぐ紹介すべきか」、「明日、紹介でいいのか」の判断は困難であり、結局評価不十分な状態で専門医に診療を依頼することとなります。専門医の数が少ない地域では時間外の紹介は患者・家族や医療機関に大きな負担をかけてしまいます。

たとえ専門医でなくともちょっとした技術・コツを駆使して無事問題解決できたり、十分に評価して適切な専門医に紹介できたときにはプライマリケアの醍醐味を味わうことができるだけでなく、医師としてのやりがい、専門医の温存、さらに地域医療再生にまでつながるのではないかと考えております。

近年、超音波検査（以下エコー）の機器の小型化・高性能化に伴い、プライマリケアの領域において心臓や腹部疾患の評価だけでなく血管、皮膚疾患、整形外科領域など様々な部位に対してエコーを用いて評価を行い、診断の補助、治療方針の決定に役立てるといふ流れになりつつあります。

今回はエコーが先生方の日常診療に対しどこまで介入することができるかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。